

教育目標		『すべての子どもを幸せに』～自尊感情を高め、自立してたくましく生きる児童の育成～						
重点目標		・「生きる力」を育み未来への道を切り拓く力の育成(生涯にわたる可能性とチャンスを最大化) ・子どもたちの学びを支える環境の充実						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校教育	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	・基礎的・基本的な知識技能を習得させる。	・めあてを提示し、ふりかえり理解を確認しながら授業を進める。	・児童アンケートにおいて「授業はわかりやすく楽しい」との回答が90%以上	B	・児童アンケートの結果が90%となった。授業を日々工夫しながら計画的に進めている。	・継続して授業研究、授業改善を進めていく。	・宿題は真面目に取り組んでいるが、読書については時間を確保できていない。
			・宿題や課題を最後までやらせるように支援をする。	・児童アンケート①「家で低学年は30分、中学年は60分、高学年は90分以上学習している」②宿題や課題をきちんとやりきっている。職員アンケート「時間に見合う課題を与えている」の回答が90%以上		・児童アンケートの結果①は63%、②92%。	・家庭学習の内容について各学年で精査する。また、学習習慣をつけるため、子どもたちの学力保障への手立て、基礎的な学力をつけるためのカリキュラム・授業・朝学習などの工夫をする。	・自主的に宿題以外の勉強ができていない。
			・家で低学年は30分、中学年は60分、高学年は90分以上学習している	・読書数を増やす。図書館の利用促進、学級文庫の充実。		・児童アンケート「学校や家で読書をしている」、保護者アンケート「家庭で読書の習慣を身につけさせている」の回答が80%以上	・児童アンケート結果57.9%、保護者アンケート結果37%である。	・学年によりや図書など、掲示や配布物で呼びかける。
	新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	・情報機器を活用した授業に取り組む。	・ICT機器やタブレットを活用してわかる授業を実施し、学習に対する興味・関心を喚起する。	・情報教育年間計画、情報機器活用能力・情報モラル目標を達成している。職員アンケート「ICT機器やタブレットを活用してわかる授業を工夫している」80%以上	B	・職員アンケートの結果が83%と一定の結果は出ているが、SNSをはじめとする情報モラルの点では、生活指導的事案も発生しており、学習と指導を絡めて進めていく必要がある。	・情報モラルや、SNS等とのつきあひ方について、子供たちに指導するとともに、保護者にも積極的に啓発していく。	・ICT化が進む中でこれまでの教育のよい点を継承しながら今後も効果的な指導につなげていきたい。
			・外国語活動や英語教育を充実を目指す。	・活動を中心とした外国語活動を実施して、児童に興味・関心を持たせる。児童アンケート70%以上		・児童アンケートの結果が64%であり、外国語活動・英語教育への学校全体としての取り組みを進めていく必要がある。	・習熟の差が大きく、Small Talkなど、既習語句や表現を繰り返し活用し、授業内での対話を中心に、興味関心を引き出していきたい。	・情報モラルについては重点的に指導して欲しい。
			・各教科で効果的にタブレットを活用する。	・児童アンケートにおいて「先生は、教え方いろいろと工夫している」との回答が90%以上		・児童アンケートの結果が95%であり、ICTの活用が定着してきているので、効果的な活用を継続してさぐってきたい。	・ICT機器をうまく活用しながら、効果的な指導について進めていく。	・英語教育については日常会話についても習熟していく必要がある。
	「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	・問題行動に対する指導体制を充実させる。	・児童を理解し、指導の徹底を図る。	・生活指導、人権、特別支援の研修会を実施する。	A	・職員アンケート結果が85%であり、研修会も計画的に実施できた。	・個別に配慮する児童も増加傾向であるが職員全体で共有しながら、学校活動を進めていく。	・あいさつがよくできているのはとても良いことだと思う。学校に来ると子どもたちは元気にあいさつしてくれる。
			・自分からあいさつができるよう、日々の生活の中で指導を進める。	・児童アンケート「じぶんから すずんであいさつをしている」80%以上		・児童アンケート結果が82%である。挨拶習慣についてはより高みを求めていきたい。	・委員会、学級指導を継続していくとともに、挨拶という習慣をつけるため保護者にも啓発していく。	・不登校対策については、今後も幼小、関係機関との連携しながら進めていく必要がある。
			・道徳や日々の授業・学級指導の中で、自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてもらっている」の回答が80%以上	・児童アンケートにおいて「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてもらっている」の回答が80%以上		・児童アンケートの結果が89%であり、日々の生活の中で、丁寧に指導を進めることができていく。	・年間を通して、自分を大切にすることや、他人への思いやりについて考える機会を持つよう指導していく。	・いじめについては、家庭、地域とも連携して取り組んでいく必要がある。
	「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	・児童の体力の向上を図る。	・不登校児童の情報を全職員で共有する。	・不登校対策委員会やケース会議を必要に応じて実施する。	A	・不登校対策委員会や、ケース会議など関係機関と連携しながら、個別の事情に応じて対応してきた。	・別室登校の支援体制と、個別対応をこれからも継続していく。	・不登校については、家庭との情報交換を密にして取り組んで欲しい。
・家庭でのゲームやスマホの使用のルール作りを相談する。			・年度初めや、長期休み前にはゲームやスマホなどSNSの使い方のルールを家庭に啓発する。	・日々の指導や、保護者への啓発などを発達段階に応じて指導できた。しかしSNS等のトラブルは0にならないのが現状である。		・児童・保護者へ啓発を続けていく。	・コロナ中に体力がかなり低下したと聞く。業間時間を活用するなど体力向上につながる取組をしてはどうだろうか。	
・授業で、各学年に応じた運動プログラムを取り入れる。			・教職員アンケートにおいて「学年に応じた運動プログラムを取り入れている」との回答が90%以上になる。	・教職員アンケートの結果は85%だが、市内の体力測定結果からは、R3年度より下降傾向である。学年に応じた運動プログラムで結果が出ていないので、内容を改善する必要がある。		・体力面の数値が特に低いので(シャトルラン)、体力向上を軸に改良した運動プログラムを作成し、R6年度から実施していく。	・コロナ禍に夕食を食べていたのが、グループで楽しく食べられるようになって欲しい。	
教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	・児童の実態を把握し、関連機関との連携を密にとる。	・キャリアパスポートを実施する。	・年に2回キャリアパスポートの記入を実施する。	B	・キャリアパスポートを書くことにはなれてきたが、一方、効果的に活用することができたかは教職員アンケートで30%と活用する部分では課題が残る。	・キャリアパスポートの内容にとらわれず、キ「キャリア教育で身に付けさせた力」に、各学年で今年度取り組んできた学習や行事などとキャリア教育との関わりを整理していく。	・自分の将来について考えることは大切なので、低学年からどんどん進めて欲しい。	
		・SC・SSWを活用して支援体制を整える。	・支援を必要とする児童の把握と関係機関への支援体制を整える。		・不登校対策やケース会議など、個々の事案に応じて連携し、校内での居場所作り・支援体制について進めている。	・今後も様々な機関と連携をとって児童の指導につなげていく。	・今年度は様々な機関と連携をとって児童の指導につなげていく。	
		・関係機関と密に連絡を取り相談する。	・支援を必要とする児童の把握と関係機関との連携体制を整える。		・ケース会議や校内委員会を密に開催して実施。	・不登校対策やケース会議など、個々の事案に応じて連携し、校内での居場所作り・支援体制について進めている。	・今後も様々な機関と連携をとって児童の指導につなげていく。	・今年度は様々な機関と連携をとって児童の指導につなげていく。
特別支援教育の推進 ・特別支援教育の充実	・個に応じた支援計画を立て適切に実施する。	・発達検査や診断を受けた児童を中心にサポートファイルを作成する。	・サポートファイル、個別の支援計画等の作成。	A	・サポートファイルの作成を行い、学期ごとの個別の計画や成果を記録した。	・今後も継続して、研修・会議・委員会など、連携を密にして進めていきたい。	・支援を必要とする児童が増えてきているので、スタッフの増員を希望する。	
		・必要に応じてケース会議をもち適切な対応や支援をする。	・校内研修を年に2回以上行う。		・校内研修で年に2回全職員で研修会を持つことができた。	・今後も継続して、研修・会議・委員会など、連携を密にして進めていきたい。	・支援を必要とする児童が増えてきているので、スタッフの増員を希望する。	
		・授業力の向上と授業改善をめざして校内研修会を実施する。	・学年ごとに年間1本以上授業を公開する。		・職員アンケート「他校の研究会に一人一回以上参加する」90%以上	・職員アンケートで90%。研究推進から啓発し、他校の研究会に積極的に参加している。	・授業力向上のため、子どもたちの学びを深めるため、継続して研究していきたい。	・教職員独自の個性を活かした教育を進めていくことが必要だと思う。
教育環境の整備・充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	・積極的に学校情報を発信する。	・学校だよりを発行し、地域にも配布する。	・学校だよりを月1回以上発行、HPを月1回以上更新する。	A	・学校だよりは月1回以上発行することができた。	・これからは積極的に学校の情報を発信していく。	・HPの更新は大変だと思うが、保護者にとって学校の様子がよくわかってうれしい。	
		・ホームページにより学校の情報を積極的に発信する。	・保護者アンケート「学校は、学校・学年だよりやホームページなどを通して学校情報を発信している」の回答90%以上		・ホームページで機会あるごとに学校の様子を知らせることができた。	・保護者アンケート98%。	・今年度は学校運営協議会として新しい事業がスタートした。継続できるようにしていきたい。	
		・学校運営協議会と連携し、教育活動を進める。	・学校運営協議会委員と職員との交流の場を設け、課題解決に務める。		・交流の場を設けることで、九九学習・むかしの暮らし等において、取り組みを進めることができた。	・今後も学校運営協議会及び、家庭・地域との連携をはかっていく。	・学校だけでなく地域も巻き込んで、コミュニティとして子どもを育てていくことが必要である。	
安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	・教育環境の整備を行う。	・火災、水害、地震の避難訓練と不審者対応の訓練を行う。	・学級指導、全校訓練を実施する	A	・計画的に訓練を実施し、反省を共有して次に繋げていくことができた。	・今後も防災教育に力を入れて、より安全に学校生活を送れるように実施していく。	・先生方の仕事量が少しでも軽減されることを願う。できた時間を授業の工夫や子どもたちに向き合う時間にしていただけたらうれしい。	
		・安全点検を行い、校内の危険場所の把握と整備を行う。	・保護者アンケート「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」の結果が90%以上		・保護者アンケート結果は97%で、毎月の安全点検も定期的に行うことができた。	・定期点検を続け、安全な環境を維持していく。	・先生方の仕事量が少しでも軽減されることを願う。できた時間を授業の工夫や子どもたちに向き合う時間にしていただけたらうれしい。	
		・警察、CAP、自転車教室等学年の系統性を持って安全指導をする。	・1年、3年、4年生で実施		・2023年度は計画的に実施された。	・学年に応じたプログラムを継続していく。	・働き方改革について、職員全員で考えていく必要がある。	

学校関係者評価総括  
 ・総括表を見ると、かなり多くのポイントから分析されている。保護者としては、子どもたちが健康で集中して学習に取り組めるよう願う。  
 ・学校運営協議会として学校を支援し、子どもたちの環境が整うように努力していきたい。  
 ・幼小連携「架け橋プログラム」を推進し、みんなで子どもを育てていく環境づくりに取り組んでいくことが必要

次年度に向けた重点的な改善点  
 ・家庭学習及び読書習慣の推進  
 ・ICTを活用した授業改善及び情報モラル教育の推進  
 ・児童の体力向上の推進  
 ・不登校傾向の児童や保護者への支援体制の充実  
 ・地域と学校の連携・協働体制の構築